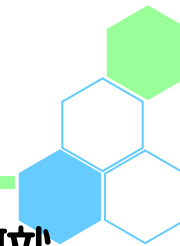


職員の看取りケアについての 意識調査

介護支援専門員 高橋 学 後藤 祐三郎
支援相談員 日野 和基 手代木 明子
佐藤 美代子

宮城社会保険介護老人保健施設
サンビュー宮城
障害者介護支援センターサンビュー宮城

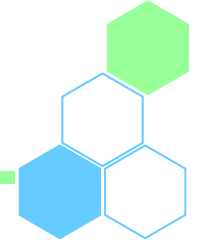
はじめに



施設での看取りケアを始めて5年となるが、職員からは、いまだに看取りケアそのものへの不安や業務の負担が増えているという声が聞かれている。

そこで、在宅復帰を支援する一方で、看取りを行うという矛盾した支援をどのように考え、これからどのような支援につなげればいいのか、職員の意識調査を行ったのでその結果を報告する。

対象と調査方法



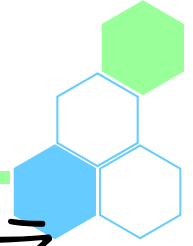
対象（全職種60名）

看護師、介護士、リハビリ、支援相談員、介護支援専門員、管理栄養士

調査方法

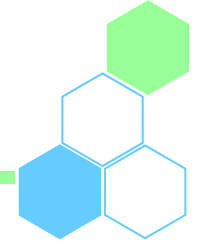
- ・無記名によるアンケート調査

考察



- ※ 看取りに賛成する職員は、明らかに増えている
- ※ 癌の末期で、死に至るまでの期間が短い人たちに、どのように接したらいいのかとまどいがある
- ※ 看取りになったから「何か特別なことをしなくてはならない…」と思っている
- ※ 看取りがわからないまま、看取りの支援をしている

結論

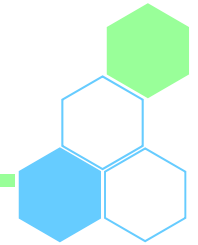


◎ 看取りとなったから、個別ケア？
違いますよね？

看取りとは、その人らしさを大切に
することです！！

◎ 死が迫っていることは、介護福祉施設では、特別なことではない。日常生活の延長線上にあるもの！

おわりに…



来る、2025年に向けて、
介護老人保健施設の姿は…

- 在宅復帰支援
- 癌末期の方の受け入れ
- 人生の終焉の場所

※ 二極化していくのでは！？